

Market Flash

発表日: 2018 年 9 月 11 日 (火)

持ち堪える世界経済

～PMI を見る限り減速の兆候はない～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

【海外経済指標他】

- ・ 7 月の英指標は月次 GDP が前月比 +0.3% と堅調。サッカー W 杯による一時的要因で高めの伸びとなった可能性が指摘できるが、その後の反動を考慮しても 4 - 6 月期の成長を上回る可能性が高い。7 月はサービス業と建設業がそれぞれ好調だった反面、製造業が鈍化。同時に発表された鉱工業生産は前月比 +0.1%、製造業生産は▲0.2% とやや軟調であった。

海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

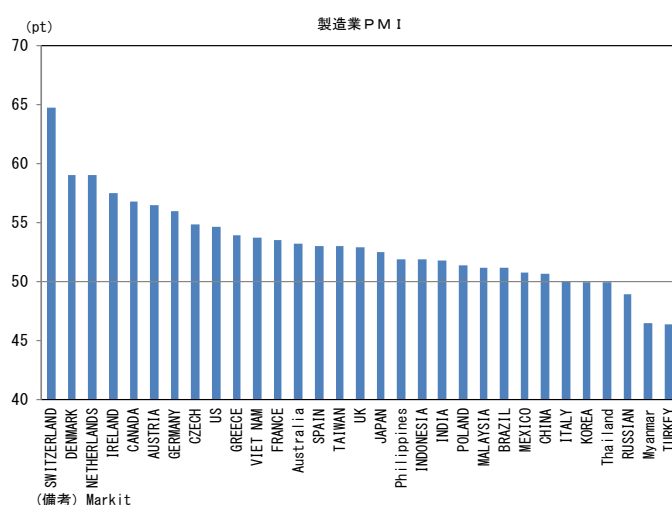
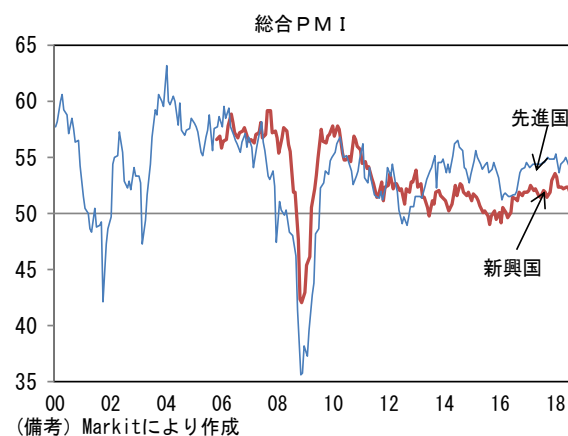
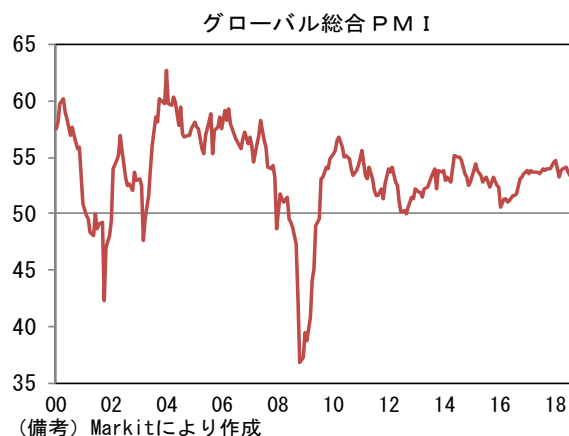
- ・ 前日の米国株は区々。一部構成銘柄の下落が響き NY ダウは続落も、S&P500 と NASDAQ は上昇。8 日にトランプ大統領が「関税を回避したいなら生産拠点を米国に移せ」と圧力をかけたことで通信機器大手が下落。WTI 原油は 67.54^{ドル} (▲0.21^{ドル}) で引け。
- ・ 前日の G10 通貨は GBP の強さが目立った反面、CHF と JPY が弱かった。GBP の強さは EU のバルニエ首席交渉官が「今後 6 - 8 週間でのブレグジット合意は現実的で可能」と発言したことに反応したもの。それに EUR は追随し EUR/USD は 1.16 近傍へと上昇。USD/JPY は 111 前半へと水準を切り上げた。
- ・ 前日の米 10 年金利は 2.935% (+0.4bp) で引け。7 日発表の雇用統計に大きく反応した後とあってこの日はナローレンジで推移。欧州債市場 (10 年) はドイツ (0.400%、+1.4bp) が小幅に金利上昇となった反面、フランス、スペインが小幅に金利低下。一方、19 年度予算審議の進捗が好感されているイタリアは大幅に金利低下。10 年金利は節目の 3% を割り込んだ。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

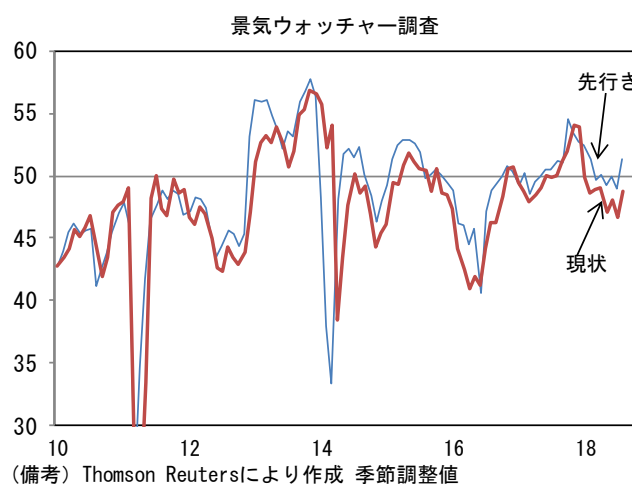
- ・ 日本株は米国株が区々となるなか、小幅高で寄り付いた (9:00)。

<#グローバル PMI #新興国 #通貨安をよそに実体経済は堅調 #景気ウォッチャー改善>

- ・ トルコを中心とした新興国金融市場の波乱、米通商政策に対する警戒感など様々な逆風にもかかわらず、8 月も世界経済は持ち堪えた模様。速報性と予測精度に優れたグローバル総合 PMI をみる限り、8 月にかけて成長モメンタムが減速した様子は窺えない。グローバル総合 PMI は 53.4 へと僅かに低下したものの、目下の水準は 2017 年平均を僅かに下回るに過ぎず、しかも懸念材料である新興国は 2015 年を遥かに上回る領域で推移している。新興国は、通貨下落およびそれに伴う短期対外債務の膨張、インフレ率昂進等の不安を抱えるものの、企業活動が壊滅的打撃を受けている訳ではない。トルコはやや例外的としても、製造業 PMI が 50 を割り込んでいる国は 3 ヶ国に過ぎない。



- ・そうしたなか、日本では景気ウォッチャー調査が改善。8月の現状判断DIは48.6と8ヶ月連続で50を下回ったものの7月から2.1pt上向き、先行き判断DIは51.4へと水準を切り上げた。調査期間である25日から月末までは、それまでの1ヶ月との比較で悪天候が和らいだほか、金融市場の安定も寄与した。10日発表の4-6月期実質GDPは前期比年率+3.0%と潜在成長率を明確に上回る軌道が示されたばかりだが、今回の数値はそうした強さが8月から9月にかけて引き継がれていたことを示唆する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。